

サンデングループは、2014年度に策定した「第3次中期環境基本方針」を構成する4つの「Green」戦略—Green Technology、Green Management、Green Process、Green Communication—に取り組みました。

Green Technology

世界中の人々およびお客さまの環境指向ニーズを的確に捉え、「冷やす・暖める」のコア技術に「省エネ技術」を盛り込んだ「環境貢献新商品」を生み出す最先端の技術開発、商品開発を進めています。

自動車機器事業では、小型・軽量化、省動力化の技術開発に加え、温暖化係数が小さく、オゾン層を破壊しない二酸化炭素(CO₂)を冷媒として使用した可変型コンプレッサの量産を世界で初めて実現しました。また、ヒートポンプ技術を活用した高効率自動車エアコンシステムの開発も行いました。なお、製品の環境貢献度を測る社内指数の製品環境指標では、軽量化において目標が達成できなかったため、指標の目標達成率は95%でした。

流通システム事業では、二酸化炭素(CO₂)を冷媒にした自動販売機と共に冷凍・冷蔵ショーケースのラインアップを拡大し市場投入を行っています。

グローバルに広がるサンデンのテクノロジー



また、お客さまの嗜好の多様化に対応できるよう、「独自開発技術による」「きめ細かな」「艶のある」「泡密度可変な」「HOT&COLDフォーム」フォームドミルク調理技術を確立して、上質なラテメニューなどの新しいミルク商材を提供するとともに環境対応したコーヒー自動販売機を開発、市場投入しました。

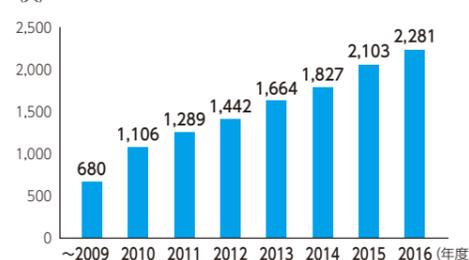
Green Management

経営方針である「環境から企業価値を創造する」を実現する環境経営を支える活動として、ISO14001に基づく環境マネジメントの実践、環境マインドを持った社員の育成、全員参加の環境活動を推進しています。

大気汚染など環境問題が深刻化している中国、グローバル化学物質規制を牽引している欧州など、環境問題には地域的な特性があります。そこで、中国では、各拠点の環境活動の共有、環境リスク解決のための議論、そして各拠点の環境活動レベルの向上、中国における環境課題解決への貢献を目的に、第1回中国地区環境大会を開催しました。また、欧州でも各拠点の代表と環境推進者が集まり、第1回欧州地区環境大会を開催し、開催地を冠したタンティニアック・アグリーメントを採択し、継続的な環境改善活動を確認しました。

国内では、東海・北陸支店が、名古屋市から「エコ事業所」認定を受けました。この認定は、経営方針・環境経営がグループ内に浸透していることの表れです。また、環境マインドを醸成する一環として、国内社員へeco検定(環境社会検定試験)の受検を、経営方針が発表された2009年から推進しています。社外講師によるエコセミナーや社内での勉強会を通じて、2016年度は178名の合格者(エコピープル)が誕生し、累計で2,281名のエコピープルが日々の業務で環境に配慮した活動を展開しています。

エコピープル数の推移



Green Process

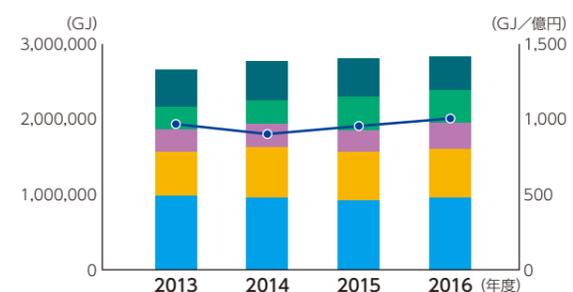
2018年度を最終年度とする「中期環境基本方針」を定め、各拠点で環境活動を展開しています。2016年度は、PDCAサイクルを確実に回すため、グローバル環境情報管理システムを導入し、環境データの変化をこまめに捉え、改善活動につなげる環境マネジメントを目指しました。エネルギー使用量は昨年度と同等でしたが、国内における販売減や為替の影響等により売上高原単位は、2015年度比5%の悪化となりました。中期環境基本方針の達成に向け、生産性向上、エネルギー使用の見直し、省エネ機器への更新等を推進するとともに、拠点での改善委員会等を組織して、エネルギー使用視点で見た業務体質改善を進めています。

廃棄物排出量と水使用量は、絶対量および売上高原単位共に削減できました。特に中国では、第1回中国地区環境大会の開催と環境教育の実施により、大幅な削減ができました。

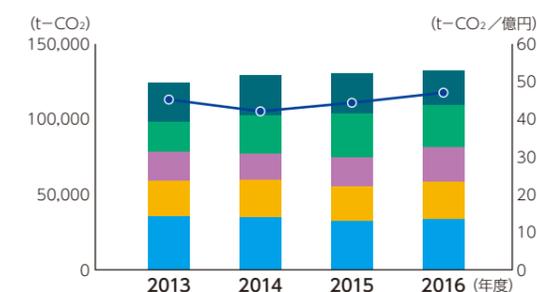
国内各拠点では、鉄系材料の有効活用を目指し、MFCA(Material Flow Cost Accounting)を展開しています。また、新たな取り組みとして、工場からの排熱等の有効活用と自社技術を応用した「創エネ」の可能性検証、そして、廃棄物で大きなウェイトを占め、職場環境も悪化させる水溶性切削油の削減等の活動も開始しました。

これからも環境負荷低減に向けた環境活動を積極的に展開していきます。

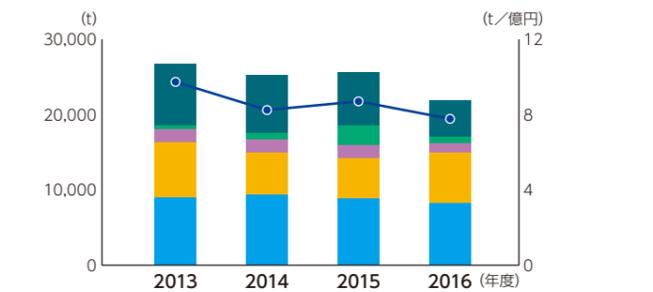
エネルギー使用量(地域別実績推移)



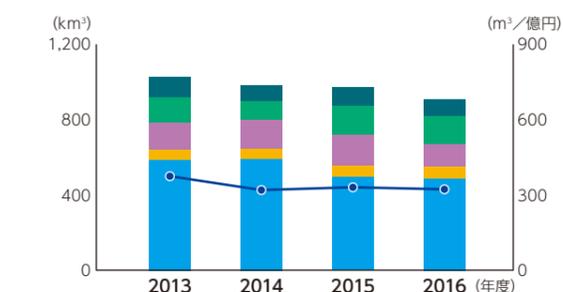
CO₂排出量(地域別実績推移)



廃棄物排出量(地域別実績推移)



水使用量(地域別実績推移)



Green Communication

2014年に策定した「生物多様性方針」を基本に、企業市民の一員として、地域の環境保全活動に積極的に参加しています。グローバル各拠点での様々な取り組みを紹介します。

生物多様性方針

基本的考え方

サンデングループは、事業活動が及ぼす生態系への影響を認識し、「環境と産業の矛盾なき共存」を目指した活動を展開し、持続可能な社会の実現に貢献する。

取り組み

1. 人と自然が共存する事業活動を推進する
2. 生態系に配慮した資源を積極的に利用する
3. 地域と連携・協力しグローバルな視点で活動する
4. 自然の恵みを学ぶ環境教育活動を展開する
5. 活動の成果を広くステークホルダーに発信する

2014年4月制定

取り組み 1

グリーンウェイブ活動など植樹、環境整備活動に積極的に参加しています。



サンデンフォレストでの森林整備活動

社員による植樹活動

*グリーンウェイブは、木を植えることをきっかけとして、生物多様性について考えるための、地球規模のキャンペーン

取り組み 2

地域、各拠点の現状に即して独自の環境活動を展開する「環境オリジナリティ活動」を展開しています。



フランス工場での食堂廃棄物のコンポスト化

台湾の社員家族による清掃活動

取り組み 3

当社グループの環境のシンボルである「サンデンフォレスト・赤城事業所」は、設立15周年を迎えました。様々なイベントを開催し、年間約15,000名の来場者があります。また、公益社団法人 土木学会主催の「土木学会デザイン賞2016」において、近自然工法によるサンデンフォレスト・赤城事業所の敷地造成が高く評価され、株式会社 西日本科学技術研究所様をはじめ、造成にかかわった関係組織が優秀賞を受賞いたしました。



近自然工法で造成したサンデンフォレスト・赤城事業所

2016年度目標と実績

2018年度を最終年度とする「中期環境基本方針」を基に設定した2016年度の環境目標に対する活動結果についてご報告いたします。

※評価の基準(自己評価) A:達成 B:概ね達成 C:不十分

基本戦略	中期環境基本方針	2016年度環境目標	2016年度活動評価
Green Technology	製品環境指標を量産機すべてで達成(目標値は製品別に設定)	新規開発機種で製品環境指標0.9以下(対象機種との環境性能比較)	B
		革新的な技術開発で製品使用時の負荷を低減する	A
Green Process	環境負荷低減 ●エネルギー使用量15%以上 ●廃棄物排出量15%以上 ●水使用量 5%以上 ●有害化学物質排出量5%以上 (すべて売上高原単位2013年度実績比)	・CO ₂ 排出量売上高原単位2013年度比9%削減 ・総量は2015年度実績を上回らない	C
		・廃棄物排出量売上高原単位2013年度比9%削減 ・総量は2015年度実績を上回らない	A
		〈国内事業所/関連会社〉 再資源化率99%以上(ゼロエミッション)を継続する	A
		・水使用量売上高原単位2013年度比2%削減 ・総量は2015年度実績を上回らない	A
		〈国内事業所〉 有害化学物質排出量売上高原単位2015年度比5%削減	A
Green Management	環境活動レベル全サイトA以上	環境活動レベル評価の実施と拠点へのフィードバック	A
		環境方針展開と環境マネジメントを強化する	A
		環境教育の実施・啓発を行う	A
Green Communication	生物多様性活動のグローバル展開 外部評価の獲得	企業市民として環境保全活動に参画する	A
		アンケート・環境評価結果による活動の見直し	A
		日経環境経営度ランキングの向上	A

2016年度実績に関しましては、ホームページに掲載しています。

サンデングループは、社是のひとつに「顧客のためになるよい製品を作ります」を掲げています。魅力のある製品、システム、サービスを常にお客さまに提供し続けるという、お客さま第一の精神を実践しています。

品質向上を目指してSTQM活動を展開

サンデングループは、1994年に、独自の全社的なマネジメント品質改革活動であるSTQM (Sanden Total Quality Management) 活動をスタートさせ、世界トップクラスの経営品質を目指してきました。STQMとは、「個々のマネジメント品質、および、結果品質を徹底的に向上させて、21世紀に反映する会社を創り上げるため、毎日、毎日の創造改革努力を積み重ねる行動である」と定義しています。世界中のお客さまに最速で高品質の製品を提供していくため、サンデングループは、方針管理、PDCAサイクル、人材教育に加え、職種別、階層別、事業所別などの革新・改善の活動を、様々な形で展開しています。さらに、この活動をグループ全体に広げることで、「グローバル・エクセレント・カンパニーズ」の実現に取り組んでいます。



お客さま密着の4極開発体制

グローバルな市場・お客さまに密着するために、事業と開発部門が一体となり、4極開発体制(日本・欧州・北米・アジア/中国)としています。お客さまへの新製品・新技術提案を軸とした新製品開発を積極的に展開し、併せて材料技術、信頼性技術および生産技術等、グローバルでの技術支援を幅広く展開しています。

お客さまの視点に立った改善の徹底

2016年6月開催の一般財団法人日本科学技術連盟主催の「第9回事務・販売・サービス部門全日本選抜QCサークル大会」において、サンデン・リテールシステム株式会社のタイムズスクエアサークルが、QC本部長賞*金賞を受賞しました。また、11月開催の「第46回全日本選抜QCサークル大会」では、サンデン・オートモーティブコンポーネント株式会社のホットフォーミングサークルが、QC本部長賞*銀賞を受賞いたしました。

*サークル活動の普及とその活性化、個々のQCサークル活動のレベルアップを目的として、1971年に創設された賞。「QCサークルの基本」の精神に則り、他の範となるべき活動を行うQCサークルに授与されます。



お客さま満足度向上への取り組み

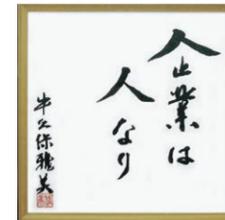
サンデングループでは、事業会社ごとに方針・施策を立案し、お客さま満足度向上に取り組んでいます。具体的には、お客さまとの毎月の定例会議の開催や年1回のヒヤリングによる評価、またはお客さま満足度調査等を実施しています。

お客さまサービスセンター(国内)では、製品に関するお問い合わせやサービス依頼を365日受け付けています。これらの施策を通じて、お客さまからの声を製造工場の品質保証部門へ伝え、内容を分析し、製品改善や新製品開発につなげています。

サンデングループは、社員一人ひとりが能力を最大限に発揮できるような人材育成と職場環境を整備することが、企業としての成長につながると考えています。また、社員の心身の健康保持と徹底した労働安全衛生の確保に努めつつ、ワークライフバランスに配慮した職場環境づくりに注力しています。

「企業は人なり」の理念

「人と組織のチームワークこそ会社繁栄の礎」。当社創業の精神に脈々と流れる基本思想のもと、社員が意欲に満ち、グローバルに活躍できる会社をサンデングループは目指しています。23カ国・地域54拠点で、国や文化、性別、キャリアなどの異なる多様な社員たちが、生き生きと能力を発揮できる職場環境づくりに注力しています。



会社繁栄の礎

人事に関するデータ

		(単位:人)			
		2013年度	2014年度	2015年度	2016年度
女	従業員数	2,414	2,407	2,394	2,304
	社員数	273	279	284	298
	執行役員	0	0	0	1
	管理職	4	10	12	10
外国人採用数(新卒)		3	2	1	5
障がい者数		66 (2.18%)	73 (2.46%)	80 (2.64%)	91 (3.27%)

※1 各年度3月末時点。
 ※2 サンデンホールディングスおよび7事業会社の数値となります。
 ※3 重度障がい者は1人で2人算定としています。
 ※4 ()内は障がい者雇用率の数値となります。
 ※5 障がい者数および雇用率には特例子会社雇用も含まれています。

人財育成の推進

サンデンホールディングスおよび7事業会社は、「人間力」×「技術力」=「経営力」という人材教育の基本精神を基盤とし、「リーダーシップ教育」を共通教育として、若年層から一貫して実施しています。

また、自己啓発を支援する教育制度、各部門・事業所ごとに実施する専門教育も整備しています。

女性管理職比率の向上

2017年3月末時点で執行役員1名、管理職10名のほか、リーダー的役割を担う18名の女性が活躍しています。階層

別として、入社3年目の社員と次期管理職候補は、性別を問わず教育を実施しています。また、早稲田大学ビジネススクールと連携し、地域経済成長の原動力となる次世代経営人材の育成を目的に開催している、「ビジネススクール地域活性化人材育成プログラム」にも毎年女性が参加し、新たなチャレンジをしています。

ダイバーシティ活動推進

サンデングループは、2016年12月にダイバーシティ活動の推進と動機付けを目的として、「サンデンダイバーシティフォーラム2016」を開催いたしました。「経営戦略から考えるダイバーシティとは何か」をテーマに2部構成で行われ、女性リーダーおよび次期女性リーダー候補者ならびにその直属の上司、約130名が集まったほか、タブレット端末を使って遠方拠点の女性社員も参加しました。



コミュニケーションプラザ(本庄市)において

安全衛生活動の促進

サンデングループの安全衛生は、各事業所や営業拠点、グループ会社の安全衛生担当者連携を取りながら活動しています。国際規格「OHSAS18001」の取得については、2012年度の取得開始以来、国内全16拠点で取得を完了し、海外拠点については、2012年度に5拠点、2013年度に6拠点、2014年度に1拠点、2015年度に1拠点、2016年度は、中国とアジアの2拠点で新たに認証を取得し、国内外の31拠点で取得を完了しました。

グローバルに展開するサンデングループの継続的発展には、競争力のある材料・部品が不可欠です。取引先とは、真のビジネスパートナーとして信頼関係の構築に努めています。またサンデングループは、株主や投資家の皆さまに長期的にご支援いただくため、投資判断に有益な会社状況について、説明責任を遂行することが重要であると考え、積極的なコミュニケーションに努めています。

強固な信頼関係を築く「G-CF会*」を開催

「G-CF会」は、サンデングループのビジネスパートナーである、取引先の生産活動やサンデングループ製品の拡販活動に対して感謝をするとともに、グローバルでの経営活動をご理解いただき、強固な信頼関係を築くための会として開催しています。

2017年2月に開催したG-CF会には、国内61社、海外23社、計84社(162名)の取引先にご出席いただきました。その中で多大な貢献をいただきました19社を表彰させていただくとともに、エンジニアリングチェーンとサプライチェーンの活動で顕著な成果を上げられ、当社の技術開発・商品競争力に貢献していただいた取引先2社にGreen Product賞(優良環境技術提案)、Green Process賞(環境に優しいモノづくり)を授与し、優秀事例として発表していただきました。

*Global Create Future会



2017年サンデンG-CF会 取引先表彰

情報開示

当社をご理解いただくために、四半期ごとに決算短信(日英)を発行し、当社の経営理念や経営戦略、中期経営

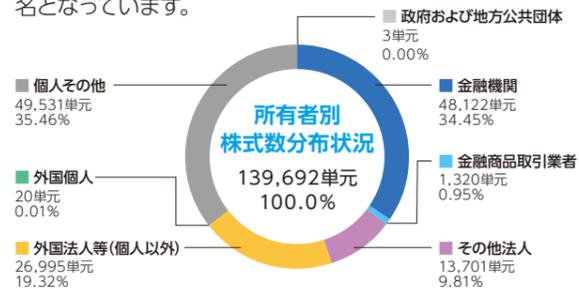
計画等について、当社ホームページや有価証券報告書等で公表しています。第2四半期と第4四半期に金融機関・機関投資家向けに決算説明会を行い、資料(日英)を当社ウェブサイトに掲載しています。当社は今後も、コーポレートガバナンス・コードの趣旨も踏まえ、情報開示の充実を図ってまいります。

株主・投資家とのコミュニケーション

2017年6月、埼玉県本庄市にあるサンデンコミュニケーションプラザにおいて、「第91期定時株主総会」を開催しました。株主の皆さまに、サンデングループの中期経営計画と環境成長領域をご理解いただくため、展示ブースを設置し、各事業会社製品とパネルで紹介しました。また、当社は2014年から、株主総会後に株主の皆さまを対象に、会社施設見学会を開催しています。2017年は約50名の方に、「環境と産業の矛盾なき共存」を実現した、森の中の工場「サンデンフォレスト・赤城事業所」をご覧いただきました。金融機関・機関投資家向けのスモールミーティングは、年間115回開催しました。引き続き、株主・投資家の皆さまの信頼と期待に応えるため、さらなるコミュニケーションの促進を図ってまいります。

株式総数と株主の状況

2017年9月30日現在におけるサンデンホールディングスの発行済株式総数は140,331,565株、総単元数は139,692単元(1単元は1,000株)、総株主数は9,280名となっています。



*2017年10月1日から、当社株式について5株を1株にする併合を行い、単元株式数を100株に変更いたしました。

サンデングループは、様々な活動を通じて地域社会と深くかかわり、企業市民としての役割を果たしています。「社会との共生」を基本に据えて、地域社会との関係づくりに努めています。

アメリカ

日本の中学生と交流

Sanden International (U.S.A.) Inc. (アメリカ)は、人材育成の一環として、創業の地である群馬県伊勢崎市の中学生との交流会を2013年度から実施しています。2016年度は、65人の中学生が当社のグローバル展開について学ぶとともに、アイスクリーム作りを通じて、現地社員と英語でコミュニケーションし、異文化理解を深めました。



交流会参加者

中国

環境保護の理解を深める DIYコンテストを開催

Sanden Chongqing Automotive Air Conditioning Co., Ltd (中国)は、地域の子どもたちから、環境保護に関するDIY作品を募集しコンテストを行いました。応募作品31点の中から、従業員およびその家族による審査投票を行い、最優秀賞を選びました。



環境オリジナリティ活動応募作品等

イタリア

被災した学校に再建費用を

2017年2月、SandenVendo Europe S.p.A(イタリア)と SandenVendo German Branch of Sanden International

(Europe) Ltd. (ドイツ)は、日本のサンデングループと共に、イタリア中部地震の被災地を支援するため、他団体と合わせてコロニオ市役所に22,231ユーロを寄付し、そのうちサンデンとしては、10,000ユーロをアマトリーチェにある学校の再建費用として役立てていただきました。



寄付を届けたイタリアの社員たち

フィリピン

植林活動に参加

2017年3月、Automotive Air-conditioning Technology Philippines, Inc. (フィリピン)は、フィリピン市環境天然資源局(CENRO)が主催する植林活動に、110本の木を寄付し、社員たちが植林に参加しました。



植林活動に参加した社員たち

日本

東日本大震災復興支援

2017年3月、5年間継続している「アフアン震災復興プロジェクト」への協賛支援に対し、宮城県東松島市から当社に感謝状が贈られました。このプロジェクトでは、被災地の森づくりと、人々の心のケアのお手伝いに取り組んできました。



宮城県東松島市からの感謝状